



みんなで楽しい一日に 2012美郷町チビっ子フェスティバル

9月1日、美郷町中央公園で2012美郷町チビっ子フェスティバル（チビっ子フェスティバル実行委員会主催）が開催されました。この催しは親子三世代が一緒になって楽しい一日を過ごしてもらおうと行われているもので、今年で20回目を迎えます。会場には、なわなひや工作などの作品づくりコーナーのほか、救急車やはしご車、白バイなどに乗ることのできる職業体験コーナーなど多数のコーナーが設けられました。けん玉やお手玉、あやとりなどの昔ながらの遊びを教えてもらった子どもたちは、当日の残暑にも負けず夢中になって楽しんでいました。

ご当地グルメが美郷に大集合 美郷ちゃん祭

9月2日に名水市場湧太郎駐車場で、県内ご当地グルメを集めた「美郷ちゃん祭」が開催されました。美郷ちゃん祭実行委員会の坂本浩之会長は「多くの方々が見郷町に足を運ぶ機会になればと思い開催しました」と開会にあたっての思いを述べました。会場には、横手焼そばや神代カレー、男鹿しょつつる焼きそば、東成瀬村のどんが焼きなどの県内ご当地グルメのほか、美郷たぬ中や美郷まんまなど計16店舗が出店しました。会場中央のステージでは町内外から参加したアーティストによる演奏や空手の演武などが披露され、来場者たちはご当地グルメを堪能しながら、祭の雰囲気を楽しんでいる様子でした。



名水で点てたお茶で一息 六郷名水茶会

9月2日、浄光寺と楽宝寺を会場に六郷名水茶会（町観光協会主催）が開催されました。

この日茶席を設けたのは、裏千家山崎宗誠社中と玉川遠州流千畑茶道同好会の皆さん。茶道の心得がない人でも気軽に楽しめるお茶会とあって、親子連れなど町内外からたくさんの方が訪れ、流派ごとの作法の違いなどを楽しみながら、提供された和菓子や抹茶をじっくりと味わっていました。



傷病者や要援護者の支援に向けて 災害協定を締結しました

大規模災害時における傷病者や要援護者の支援のため、9月13日に美郷町医療協議会、9月18日には町内で介護サービスや障害福祉サービスを提供する福祉団体5法人1組合と、災害時における協定を締結しました。各協定では、町が設置した救護所等での応急処置の実施や、福祉団体が運営する入所施設で要援護者を受け入れることなどが明文化されています。松田町長は9月18日の協定書締結式で「両日の各協定によって、災害時の生活弱者に対する必要最低限の礎ができた。今後はさらに連携を強化して災害に備えたい。」と述べました。

◀9月18日の災害協定締結式の様子

（左から、医療法人寿康会、大仙美郷介護福祉組合、社会福祉法人六郷山南福祉会、町、社会福祉法人水交会、社会福祉法人慈泉会、社会福祉法人美郷町社会福祉協議会の代表者）



ご長寿おめでとございます 田口タツノさん 満100歳を笑顔でお祝い

9月20日に田口タツノさんが満100歳の誕生日を迎えられました。この日、田口さんのもとを訪れた松田町長は「満100歳というのは、目指してもなかなか達成できることではありません。これからもお体に気をつけて元気にお過ごしください」と声をかけ、長寿祝い金を贈呈しました。贈呈式には親族や施設利用者の皆さんが出席し、職員から手作りのケーキが手渡されると、田口さんは大変喜んでいました。田口さん、満100歳のお誕生日おめでとうございます。



たくさんの笑顔であふれました 美郷町敬老会

美郷町敬老会が9月15日に美郷町南体育館で、16日に北体育館、中央体育館でそれぞれ開催され、満75歳以上の3,958名が招待されました。

各会場では美郷町長寿番付や今年新たに敬老会に招待された方々が誕生した昭和11年、12年の出来事が紹介されました。健康運動指導士の黒田恵美子さんの講話では、招待された皆さんも一緒に手足を動かして、健康増進のための運動をしました。このほか、各幼稚園・保育園児のお遊戯、町民有志による演芸アトラクションが披露され、招待された皆さんは楽しいひとときを過ごしました。



仙南地区敬老会の様子▲▶

嬉しい

美郷町長 松田知己

風



美郷ちゃん祭で
あいさつを述べる松田町長

今夏はオリンピックを皮切りに、ずっと「あつさ」の連続でした。まずはオリンピック。メダルに関わらず「素晴らしい」の一言。その後はパラリンピック。車いすバスケットでは、千屋出身の藤井新悟氏が前回同様主将として活躍。私たちを熱くしてくれました。そしてお天気が。本当に暑かった。そんな状況が続いての9月中旬、私は秋田市でまたまた熱くなりました。「エリアなかいち」。先般、

旧日赤病院などの跡地一帯にオープンした複合施設です。新県立美術館や秋田市の公共施設、商業施設などが整備されており、商業施設には近畿圏を中心に全国展開している食品小売店が入っています。そのお店、個性と味に力点を置いて品揃えをする本物志向で、流通業界では一目を置かれている存在です。ふらつとそこに入った私は、そこで「秋田県美郷町産あきたこまち」の袋に入ったお米を見つけました。しかも「店長いち押し」というシールを貼ってもらっています。県産米では唯一の取り扱い品目で、私はその場で暫し、嬉しさと仕事の達成感を噛みしめました。

町ではこれまで、美郷産米を「美郷米」として力を入れて売

り込んできました。もちろん農業団体と連携のもとです。町が取り組んだ理由は、一つ目がブランド米にすることで農業所得を向上させること。二つ目が主要農産物である米を通じて全国に美郷町の名前を売ること。三つ目が米を通じて人と人の交流を創るためです。実は「なかいち」に入っているお店は、そんな思いを持って売り込みに行っていた会社の一つでした。既に近畿圏や首都圏で「秋田県美郷町産あきたこまち」という袋で販売されていることは確認していましたが、地元秋田の新店舗で扱ってもらえるとは思っていませんでした。

「努力は報われる」。私がつつと大切にしている言葉です。信念と言っているいかも知れませんが。しかし、すべてが報われるほど「世の中は甘くない」ことも充分知っています。だからこそ、たまにこうした事例に出くわすと心から嬉しくなるし、次の展開に新たな熱さを持ってしまっ単純な私でした。